

会 議 録

会議の名称	令和6年度第2回西東京市介護保険運営協議会
開催日時	令和7年2月3日（月曜日） 午後7時から午後8時30分まで
開催場所	西東京市役所 田無第二庁舎4階会議室3
出席者	（出席委員）渡邊委員長、梶川副委員長、中山委員、藤井委員、尾林委員、内田委員、岩佐委員、花坂委員、森委員、佐藤委員、篠宮委員、関根委員、奥井委員、加瀬委員、立川委員、松本委員 （欠席委員）伊集院委員 （事務局） ささえあい・健康づくり担当部長、高齢者支援課長、介護保険担当課長、以下10人
議題	(1) 第9期の計画の概要及び主な取組について (2) その他
会議資料の名称	資料1 西東京市介護保険運営協議会委員名簿 資料2 西東京市介護保険条例及び同施行規則（抜粋） 資料3 西東京市介護保険運営協議会会議傍聴取扱要領 資料4 西東京市高齢者保健福祉計画介護保険事業計画（第9期）概要版 資料5 西東京市の介護保険・高齢者福祉事業の概要 資料6 介護保険運営協議会開催日程について（案）
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録

会 議 内 容

1 開会

2 正副委員長選出

3 会議の運営等について

4 議題

(1) 第9期の計画の概要及び主な取組について

○事務局：

第9期の計画の概要及び主な取組について、資料5に基づき説明。

○委員

8ページの年齢階層別の認定率だが、75歳以降が急激に上がっている。私は運動部や麻雀教室に参加しているが、みな難しいルールを熱心に勉強しており、そういった面でも介護の予防になると実感している。年齢が高くなってからというよりは、65歳から75歳ぐらいの間に予防を試みるということが大事ではないかと思った。

○委員長：

参加者は何歳ぐらいの方が中心となっているのか。

○委員

かなり高齢の方も参加している。幅広い年齢の方が参加することで交流の場が生まれるのが良いと思っている。

○委員：

15ページの高齢者の在宅生活を支える主なサービスが介護保険料からではなく、市の一般財源から支出されているということを初めて知った。おそらく市民の方は、そのことをほとんど知らないと思う。

こういうこともしていると発信していく機会があれば、市民の理解が深まると思う。西東京市は高齢者が住みやすい市であると思うが、やはり急激に高齢者が増えていくという市でもあるため、いろいろな事業を継続してやってもらいたいと思った。

○委員長：

15ページにあるサービスは、ケアマネジャーを通じて利用するのか。どういう経路でこのサービスを利用となるパターンが多いのか教えてほしい。

○事務局：

ケアマネジャー経由で、高齢者の状況やお困りごとに合ったサービスをケアマネジャーが選択して申込みいただくことが非常に多い。

○委員：

配食サービスやおむつの給付サービスはありがたいサービスで、ケアプランにこれを入れることが多い。しかし、今後これを使う方が増えることについて、問題だというのを感じながら聞いていた。やはり重度化させないというのが、本当に必要なことだなと思う。

○委員：

認知症検診推進事業について、令和3年、4年と比べて令和5年が検診者数が非常に増えている理由として、市の健診案内と一緒に同封したとの説明があったが、周知方法が良かったのではないか。このような工夫は本当に必要だと思っている。

やはり高齢化が進み、働く世代も減ってきていることが、今の社会問題で、いかに健康寿命を延ばしていくのが大切だと思う。今回の資料とはまた別なのかもしれないが、市の健診の受診率は今どれぐらいなのか、もし分かれば教えてほしい。

○事務局：

まず市の特定健診については大体平均で48から49%程度の受診率となっており、50%を切るイメージである。後期高齢の方の受診率については、年度によっては50%を超えることもある。受診率の現状としてはこのような状況だが、目標値としては50%を超えて、60%に向かっていくよう、様々な事業の周知を図っている。今回はもの忘れ予防検診について質問いただいているが、先ほどのご意見のとおり、検診という一つの事業ではあるが、様々な連携をし、相乗効果を生み出していければと考えている。

○事務局：

健康診査事業は、健康課が実施しており、その結果の活用といったところでは保険年金課・健康課・高齢者支援課で、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」を行っている。検診を受けてないなどの方へはアンケートを送るなどの他、地域包括支援センターの職員が対応している。

また、生きがい推進係が行っているフレイル予防事業のポピュレーションアプローチの中でも、検診結果や介護保険の内容等ということ、今日の資料の中でもあるようなことを分析しながら、介護予防にも活用して取り組みを進めているところである。

○委員：

父親が3年前に介護が必要となったが、その際ケアマネジャーの方に分からなかったことを親切に教えていただいた。おむつの支援など利用した。私自身が高齢者向けのヨガ教室を

行っており、いらっしゃった年配の方にいろいろと教えていただいたことがとても参考になったため、そういう場があると親のことで悩んでいる人たちにはとても参考になり良いと思う。そのような話し合える場所があると良いのではないかと思う。

○委員：

地域で「今日はeスポーツに行く」とおっしゃる高齢者など、本当に心身ともに元気で、自身も健康などに関心を持っていらっしゃるのだと思う。「あなたもフレイル予防しなさい」と、高齢者に逆に私がすすめられる。本当に元気な方は訪問しても、いつも自宅におらず、いつ会えるのだろうと思うほどである。いざ何かのときに、システム自体がよくわからないので、勉強していけたらと思う。

○委員長

先ほど認知症検診推進事業について、でたくさんの方が受診したということが、非常に画期的と思う。なかなか認知症で受診に行くことはハードルが高いことであり、今これだけ受診された方がいらっしゃるというのはとても画期的だと感じた。

一方で、その検診実施後、適切な支援に繋げる仕組みの構築や体制の整備を行っているという説明があったが、受診した後、その後どうするというのは認知症の受診後の問題とよくいわれているところだと思うが、現状例えばどんな形で取り組んでいるか教えてほしい。

○事務局：

認知症の方が、自宅にずっとおり、地域との繋がりが無いという状態になるのが良くないことであり、さらに認知症が進行してしまう。それを防ぐためにも認知症カフェ等各種、認知症の方、あるいは支援をされる方が集まる場所、いわゆる地域との繋がりを持てる場の案内を行っている。また認知症になっても、支援をされる側ではなく逆に主体的に何か活動に取り組むような場に繋がられるように、地域包括支援センターなど関係機関と連携をして、取り組んでいる。

(2) その他

○事務局：

資料6に基づき今後の介護保険運営協議会開催日程について説明。

5 閉会